

教員名

柏木 千春

企画名

島根県大田市の魅力創造企画提案コンペティション

地域活性化型

自治体・国

島根県大田市観光協会の企画した大学生・高校生を対象としたコンペティション。このコンペティションは、市が抱える観光地域としての課題解決に向けたアイデアを提案してもらうものである。市及び観光協会は、優れたアイデアを選び、実現に向けた予算化もしくは継続検討をする。この事業に、研究演習Ⅰ・Ⅱ合同で参加した。

提示された地域課題：

- ①体験プログラムの提案
- ②観光プロモーションツールの見直し
- ③土産物品の提案
- ④外国人観光客の受け入れ体制



10月3日(木)～5日(土) 現地フィールドワーク  
12月10日(火) プレゼンテーション

### 企画・活動概要

研究演習ⅠとⅡ合同開催。



2泊3日のフィールドワークでは、温泉津温泉組合長、石見銀山ガイドの会会長、インバウンド部会長、埋没林公園学芸員の方から現状と課題についてお話を伺い、現場の状況を確認した。その後、次のような手順で各班企画書作成とプレゼンテーションを迎えた。

1. 班ごとにフィールドワークで感じた地域の抱える問題、資源活用の方向性を確認し、課題の特定とテーマ設定を行った。
2. テーマに基づき、解決案の検討と裏付けとなる情報収集を行った。
3. 企画案と類似する事例を探し、事業システムを確認した。
4. パワーポイントにまとめる。
5. プレゼンテーションの訓練を行った。

### 経緯・背景・目的

島根県大田市は、世界遺産(石見銀山とその文化的景観)や石見神楽、国立公園三瓶山、温泉津温泉、日本海で採れる海産物などの観光資源があるにもかかわらず、国内観光客数の低迷やインバウンド観光客の誘客が乏しい状況にある。市は、こうした観光資源を活用した新たな体験プログラム及び土産品の開発や、新規需要(国内・訪日外客)獲得のためのプロモーションの見直し、環境整備に関するアイデアを顧客目線で提案してほしいと柏木ゼミに相談が持ちかけられた。



### 取り組む課題



提示された地域課題：

- ①体験プログラムの提案
  - ②観光プロモーションツールの見直し
  - ③土産物品の提案
  - ④外国人観光客の受け入れ体制
- の中から、5名一組で構成された班ごとに1つもしくは複数のテーマを選択し、企画提案を行う。

### 本学(学生)の役割



学生たちの視点から、観光資源をどのように活用することが可能か、そのためにどのような工夫や改善が必要なのかを考え、事業化に向けた実行可能な計画策定と運営方式を提案すること。

### 活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

#### 活動結果・成果

学生の提案した中で「空き家の活性化(関西圏の大学・専門学校生によるゲストハウス経営インターシップ提案)」が、アンケートの実施と運営の仕組みについて高い評価を受けた。温泉津温泉の活性化に向けてさらなる検討することとなった。

#### 学生が身につけた能力

課題を特定し、解決に向けた提案を裏付ける情報収集、論理的な企画構成、基本的な調査手法(アンケート設計と調査分析)、チーム・マネジメント、パワーポイント作成スキル、プレゼンテーションスキル。2年生、3年生との親睦にもつながった。



### 指導教員および関係者の紹介

指導教員 柏木 千春(観光学科教授)

大田市観光協会事務局長 中村和也氏



観光マーケティング、観光地経営  
観光地域づくりを専門とする。  
全国各地の観光地域づくり  
のアドバイザーとしても活動して  
いる。



市役所職員。長年  
観光部署で勤務経  
験あり。